様式第３号

事務事業評価表（内部管理事務等）

評価対象年度	平成　26　年度
１次評価日（主幹等）	27 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	27 年 3 月 31 日

１ 事業名	財政事務	コード	163212

２ 担当部課	部等	総務部	課等	財政課	作成者	小　松　秀　尊

３ 事業概要					
目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて			
	政　策	総合計画の推進に向けて	施　策	将来を見据えた行政経営の推進	
予算科目		財政事務費	業務委託	なし（直営）	
実施義務		その他（内部事務等）	国県補助	なし	
根拠法令		地方自治法			

●事業の実施内容（DO）

４ 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		最少の経費で最大の効果が図られる行政運営に向けた予算編成を実施するとともに、予算の適正な執行や市民への情報提供により、財政運営の透明性を高める。
目的	対象者	市民
	意　図	健全財政を維持しながら、限られた財源の中で最大の市民サービスを提供する。

５ 事業の実施内容

＊26年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

財政事務の大半を占める平成27年度の予算編成については、大変厳しい財政状況のなか、中長期的な視野に立って、将来にわたり安定した財政運営を図るため、限られた財源を重要施策へ集中するとともに、現在推進している重要施策等への一定の財政負担を踏まえ、市民生活に直結するソフト事業についても十分配慮する中で、より一層質の高いサービスの安定的・継続的な提供と効果的・効率的な行財政運営の両立を目指して、財源を各部等へ枠配分することとし、予算編成を実施した。

また、条例等の規定に基づき、年2回広報などにより、岡谷市の財政状況を公表したほか、新公会計制度にによるバランスシート等の整備・公表、わかりやすい予算書の作成等行い、広く市民に対して岡谷市の財政状況などの情報提供を行った。

このほか、通年にわたり、予算執行管理、補正予算の調整などの予算事務のほか、決算、地方交付税、起債等の事務を行った。

前年度の課題への対応	限られた時間のなかで予算を編成しなくてはならないが、財源不足に見合った歳出予算の削減が思うように進まず、時間と労力を費やして調整を行うが、最終的には基金からの繰入れに依存する予算編成が続いている。段階的に繰入額の減額が図られているものと考えているが、財源不足が拡大する可能性もあり、根本的な解決には至っていない。

６ ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

区　分		24年度	25年度	26年度	27年度（予算）
① 直接事業費		432,274	496,000	451,810	450,000
	経常経費	432,274	496,000	451,810	450,000
	臨時的経費	0	0	0	0
	＊臨時的経費の説明				
② 人件費		32,000,000	32,000,000	32,000,000	32,000,000
	正規職員の人数（人）	4.00	4.00	4.00	4.00
③ 合計コスト（①＋②）		32,432,274	32,496,000	32,451,810	32,450,000
	前年度比		100.2%	99.9%	100.0%
	財源内訳 一般財源	32,432,274	32,496,000	32,451,810	32,450,000
	財源内訳 特定財源	0	0	0	0
	＊特定財源の説明				
④ コストに関する補足説明					

イ）負担金、補助金、交付金の状況

［単位：件、円、％］

負担金補助金		24年度	25年度	26年度	27年度（予算）
地方財務協会賛助会員負担金	件数	1	1	1	1
	金額	40,000	40,000	40,000	40,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	40,000	40,000	40,000	40,000
	割合	9.25%	8.06%	8.85%	8.89%

●改善の内容（ACTION）

7　具体的な課題と改善

課題

（事務を正確に実施し、少ない費用で効率的に事業を行う上で、現在課題になっていること）

予算編成に関しては、毎年改善を行っているものの、日程的・時間的な制約や厳しい財政状況という現実のなか、小手先の予算削減が限界に来ており、大胆な事業の見直し、統廃合を行わなくては、目標を達成することは難しい状況である。市民サービスの向上と健全財政の両立という現状では相反した目標の達成に向けた予算編成方針、編成方法の策定が課題となっている。

改善方法

（上記の課題をふまえて27年度以降に実施する、具体的な改善の内容）

予算編成の方法については、実施計画や組織・定数も含め、ヒアリング方法、要求・積上げ方法、シーリング、枠配分など、いくつかの選択肢があることから、中長期的な財政運営を考慮し、それぞれの長所・短所を検証しながら、その時々の重点施策や事業展開などに応じ、企画課・総務課と協議しながら、進め方の検討を行う。また、編成に取り掛かかる以前に、担当課等において予算編成に向けた協議・調整等に早期に着手するなど、可能な限り前倒しした取り組みを進め、十分な時間をかけ、予算編成を行う。

市民サービスの向上には一定の経費が必要であるが、限られた財源のなか健全財政維持のために、必要な事業の取捨選択をより一層進める中で、財政運営と事業推進のバランスを総合的に考慮しながら予算編成に取り組む。

情報提供については、市民が必要としている情報を、適時によりわかりやすく提供できるよう、市報や財政事情の公表、わかりやすい予算書など、市民の視点に立った情報提供に努める。

改善開始時期	平成27年4月

●次年度の計画（PLAN）

8　次年度の方針	継続して実施	9　施策評価による27年度の優先度 *H25年度施策評価表より転記すること	